==========

THE VEDANTA KYOKAI
ヴェーダーンタ協会
日本ヴェーダーンタ協会の最新情報
2005年2月　第3巻　第2号
http://www.vedanta.jp/multimedia/pdf/newsletter/index.html

※このメールを希望でない方はタイトルを停止と書いて返信ください。

==========

３月２０日第１７０回ラーマクリシュナ生誕祝賀会を催します。

午前の講話が午前１１時より
午後の音楽プログラムが午後３時より行われます。

皆様のご参加をお待ちしております。

---

目次

・かく語りき―聖人の言葉
・今月の予定
・ホーリー・マザーズ・ハウス落成式
・今月の思想
・元旦のカルパタル
・忘れられない物語

---

かく語りき―聖人の言葉

「失業した者があちこち会社を尋ね歩いて必死に職を求めるように、人は神をひたむきに求めるべきだ。」　シュリ・ラーマクリシュナ

「夢から覚めて、無為に過ごすのをやめ、真実に己の心を開け。正しきことを為せば、永遠の至福を見つけるであろう。」　ブッダ

---

２月の予定

生誕日

・スワミ・ヴィヴェーカーナンダ　2月1日 (火)
・スワミ・ブラマーナンダ　2月10日 (木)
・スワミ・トリグナティターナンダ　2月12日 (土)
・スワミ・アドブターナンダ　2月24日 (木)

協会の行事

・2月の例会　スワミ・ヴィヴェーカーナンダ生誕祭
2月20日 (日) 午前11時　逗子協会

---

ホーリー・マザーズ・ハウス落成式

(記者記す)

落成式前日

　私が協会に到着したのは落成式の前日でした。凍てつくような雨風の中、玄関のドアを開けると、土間にはたくさんの靴が並んでいました。すでに数十人の方がいらしているようで、あちこちからにぎやかな声と様々な物音が聞こえてきました。二階からは、子供たちが笑いながらバタバタと走り回る音。台所からは、そんな子供たちを叱るお母さんたちの声と、包丁のトントンいう音、鍋のグツグツ煮える音。遠くの方では「○○さん見なかった？」と誰かを必死に捜し回る声。中に上がるとホワイトボードがあり、この二日間に誰が何をするかがずらっと書き並べられていました。ホーリー・マザー　シュリ・サラダ・デヴィ第150回生誕祭　結びの祝賀会とホーリー・マザーズ・ハウス落成式を兼ねた、日本ヴェーダーンタ協会の大切なイベントの開催が刻一刻と迫る中、準備は着々と進められていました。

　自分の仕事を確認しようとホワイトボードに目を通し始めると、ホーリー・マザーズ・ハウスでも平行して数人の方が作業されていることに気付きました。家具、カーテン、カーペット、宿泊者用のふとん等の手配、屋外の飾りつけ照明、一階の窓を飾る小さなブーケの配置。実に様々な作業が書き出されてあります。ホーリー・マザーズ・ハウスの二階は女性用の宿泊施設としての機能を備えており、一階は協会の出版物を保管できるよう、フロア全体が間仕切りのない広いホールとなっています。明日はこの一階におよそ百名を迎えて、一切の式典を執り行うのです。礼拝を行うための祭壇も作られます。

　私には台所のお手伝いは難しいと思い二階へ上がりました。礼拝室で礼拝を済ませると、邪魔にならないようあちこちの部屋をのぞいて皆に挨拶をしました。やがて昼食の時間となり、テーブルが並べられ、祈りの言葉が唱えられました。スワミ・メダサーナンダジが準備の予定を読み上げ、全員でこの二日間の作業割当てを確認しました。食事の後は再び準備です。皆、黙々と作業を進め、あっという間に夕拝の時間となりました。

　主賓のスワミ・ゴクラーナンダジ（ニューデリー・ラーマクリシュナ・ミッショ

ン）が東京観光から戻られました。大半のボランティアの方々も家路につき、協会に泊まる数人の男性は寝支度を始めました。私は台所の隣の部屋で寝ることにしました。部屋にはいつもの静けさが戻っていましたが、外は激しい風で雨戸のガタガタという音が一晩中鳴り止みませんでした。私はすっかり疲れて寝付いたものの、夜中に風の音で何度か目を覚ましました。

当日

　朝6時の礼拝には、宿泊者だけでなく近隣の信者の方も参加されました。朝食を終えた頃からボランティアの方々が再び集まり始め、準備の総仕上げが始まりました。外に出てみると、数台の車がごちそうの入った大鍋やテーブルを積み、協会の前の狭い急坂をバックで降りて行くのが見えました。こうして何往復もして、準備した荷物をすべてホーリー・マザーズ・ハウスに移しました。この間、ホーリー・マザーズ・ハウスには、どんどんと人が集まっていました。

　午前11時。落成式の始まりです。約九十人の参加者は全員ホーリー・マザーズ・ハウスの前に並び、主賓のスワミ・ゴクラーナンダジのご到着とテープカットを待ちました。冷たい風はやみ、雨もこぬか雨に変わっていました。スワミ・メダサーナンダはヴェーダ讃歌の歌詞を印刷した紙を皆に配り、合図をしたら歌い始めるよう言いました。皆、合図を聞き逃すまいと緊張した面持ちでしたが、一度間違って合図が出されると、どっと笑いが起こり、その場は和やかな雰囲気になりました。やがて、雨がちょうど上がった頃、スワミ・ゴクラーナンダジが到着し、辺りはヴェーダ讃歌とホラ貝の音に包まれました。無事テープカットが終わると、皆ホーリー・マザーズ・ハウスの中に入り、建物の前には全員の脱いだ靴がずらりと並びました。

　スワミ・ゴクラーナンダジは、一階のホールに作られた祭壇の前に立ち止まって花と祈りを捧げられ、続いて、スワミ・メダサーナンダの案内で二階へ向かわれました。階段をほぼ登りきった所にある踊り場にはホーリーマザーの大きなお写真を飾った祭壇があり、スワミジはそこで祈りと花束を捧げられました。そして、小台所、浴室、洗面所、宿泊用の四部屋（十二人まで収容可能）、と各施設を次々とご覧になり、一階へと戻られました。

　スワミジが席に着き、次に全員が座ると、スワミ・メダサーナンダが祭壇の前で礼拝を行いました。そして、式次第について簡単に説明がなされた後、皆で昼食をいただきました。一階のホールには所狭しとテーブルが並べられ、おいしそうな匂いがいっぱいに広がりました。メニューは、魚のカレー、エビのカレー、なすの天ぷら、カッテージチーズ入りグリーンピースカレー、果物、インドのお菓子でした。

会合

　会合は、グプタさんのヴェーダ讃歌で始まりました。スワミ・メダサーナンダは、北海道から沖縄まで日本各地からたくさんの方がいらしたこと、特に、遠くフィリピンからも参加された方がいることに喜びの意を表し、歓迎の言葉を述べました。通訳はいつもの通り伊藤さんが務められました。スワミは来賓のスワミ・ゴクラーナンダジを皆に紹介し、大学時代の恩師であると説明しました。また、

日本で雪を見たいというスワミジの願いが今日かなわなくて良かったと冗談を言い、皆の笑いを誘いました。そして、スワミの誘導に従って、12月26日に起きたスマトラ島地震および津波の犠牲者の方々の冥福を祈り、皆で黙祷を捧げました。

新ホーリー・マザーズ・ハウスの開館に当たり、スワミはこの場所の歴史について説明しました。ここにはこれまでに大勢の僧が訪れており、初めは思い出多き建物を取り壊してしまうことにためらいを感じていたそうです。しかし協会の活動範囲が大きくなるにつれ必要性が増し、改築を決定したとのことでした。ここで、スワミは建築士のShinichi Yamaguchiさんと奥様を紹介しました。山口さんは、協会の長年の会員であり責任役員であった故・佐藤尚志さんがご紹介下さった方で、この新ホーリー・マザーズ・ハウスを設計して下さいました。スワミ・ゴクラーナンダジからご夫妻に記念の品が贈呈されました。残念ながら、建築会社のNoboru Takemotoさんは都合により出席出来ませんでした。スワミは、皆様や各方面からのご寄付のおかげで建立が可能となったことに深い感謝の意を表明しました。

続いて、日本語の二冊の書籍『ホーリー・マザーの生涯』（スワミ・ニキラーナンダ著、ダムール貴子訳）と『ホーリーマザーの福音』（弟子によるマザーの言行録、正木高志訳）の発刊がスワミ・ゴクラーナンダジにより披露されました。スワミ・メダサーナンダは、この日の発刊のためにご協力下さった方々に感謝の言葉を述べました。

スピーチ

スワミ・ゴクラーナンダジは『日常生活におけるホーリー・マザーの教えの実践方法について』というタイトルで講話をされました（講話の全内容は、リニューアルした協会のホームページに本年中に掲載の予定です）。スワミジは初めに、協会のこの新たな建物について、すべてが「きちんとした飾り付け」を施されていると称えられました。そして、スワミ・ヴィヴェーカーナンダジの「日本人は世界で一番清潔な民族だ」という言葉を取り上げ、自分でも通りにゴミが捨てられていないか探してみたがほとんど見つからなかったとおっしゃり、会場は笑いに包まれました。

「物質的に豊かになり生活水準が向上するのは好ましい限りですが、それで十分とは言えません。幸福や心の平和はお店では買えないのです。お金を稼ぐことが人生の目的ではないのです。」スワミジは、肉体はいつか灰になるのだから執着してはいけないとおっしゃいました。「マザーはよく、『人生の目的は霊性の実現であるということをいつも心に留めておきなさい』『繰り返し主の御名を唱えることで悟りを得ることが出来るのですよ』とおっしゃっていました。」

「マザーは、『常に心を仕事や奉仕のことに向けていなさい。しかし執着することなく、霊性の修行だと思って心を込めて行うのです』とおっしゃっていました。」スワミジは、マザーの慈悲の精神にも触れ、マザーの言われた「私は良い人たちの母親であると同時に悪い人たちの母親でもあるのです。私を母と呼ぶ人がいれば、私はその人の母親なのです。私はすべての人の母親なのです」という言葉を取り上げ、こうおっしゃいました。「マザーを愛しているならすべての人を愛するべきなのです。ところが現実は、この人は好き、でもあの人はちょっと、

と人をえり好みしています。私たちは愛する対象を広げねばなりません。すべての人を等しく愛するのです。」

　スワミジは最後に言われました。「私たちがマザーの最後のメッセージである『他人の欠点を見てはいけません』という言葉を実践していくことが出来れば、今日ここに皆で集まったことは大きな成功だと言えるでしょう。そしてこれを、皆様を代表してホーリーマザーに捧げる、私の祈りの言葉とさせていただきたい。皆様、デリーにいらっしゃる機会があれば、是非私どものアシュラマをお訪ね下さい。皆様を愛しております。皆様は私自身です。タクール、ホーリー・マザー、スワミジの祝福がいつでもいつまでも私たちにありますように。私たちが目的を持って意義深い人生を送ることが出来ますように。自らの神性を悟ることが出来ますように。これが、皆様を代表して述べさせていただく、私の祈りの言葉です。ありがとうございました。」

文化交流プログラム

　スワミ・ゴクラーナンダジの講話の後は文化交流プログラムが行われました。泉田香穂里さん（シャンティさん）、鈴木啓子さん、福田恵美さん、伊藤敏美さんが泉田さんの演奏に合わせて日本語の讃歌（泉田香穂里さん作詞・作曲）を歌われました。正木高志さん・Chizukoさんご夫妻は、Chizukoさんのギターに合わせて、ラビンドラナート・タゴールの詩を日本語に訳した歌を歌われました。サムドラ・グプタさんはキーボードを演奏しながら、アナンヤ・カマクルさん、バスワティ・ゴーシュさんと共に素晴らしい歌を披露されました。

　4時半。再びホールにテーブルが並べられ、皆でお茶をいただきました。やがて最後の片づけの時間となり、スタッフが掃除を始めました。皆、別れを惜しんで話をしたり、協会の本を購入したりしていました。そして外がだんだんと暗くなり、参加者も少しずつ帰り始た頃、スワミ・メダサーナンダが夕拝を始めました。私も挨拶をして建物を後にしました。

　日の落ちた戸外は凍てつくような寒さでした。振り返ってホーリー・マザーズ・ハウスを眺めると、二階の窓ではカーテンが豊かに波打ち、一階正面のスリット形の窓からは明るく柔らかな光がこぼれていました。ホーリー・マザーズ・ハウスで一日を過ごした私の心は、すっかり温かくなっていました。

---

今月の思想

シンプルであるためのコツとは、単に物事を単純化することだ。シンプルなことは表面的なことを避け、複雑な物事の奥に深く入り込む。問題の核心に触れ、重要な要素を正確に指摘する。シンプルなことは、遠回しに言わない。遠回りをしない。目標までのまっすぐな線をたどる。シンプルとは、二地点の最短距離を指す。

---

元旦のカルパタル

　大晦日の晩、時計の針が十二時を指し、日本中に除夜の鐘の音が鳴り響くと、新しい年が生まれます。新年の迎え方は国や地域により様々ですが、世界中の誰もが、新年と共に自分自身を見つめ直すのではないでしょうか。新年が来るたびに、時の流れの速さに人は無力であること、、我が身もまた無常であることを思い知らされます。そして、過ぎ去った一年とこれから始まる一年について、あれこれと思いをめぐらします。去年はこんなことをした。あんなことをしてしまった。あれはやらず仕舞いだった。今年はまずこっちからやろう。あれはどうすればいいんだっけ。新しいカレンダーの最初のページの、最初の日付を見ながら、新たな抱負と共に、新たな一年を力強く始めるのです。

　協会では毎年、元旦に集まって鶴岡八幡宮と長谷の大仏に参拝するのが恒例行事となっています。東京では大晦日にかなりの雪が降りましたが、元旦は好天に恵まれ、絶好の参拝日和でした。実は私は、遠路はるばる東京から逗子まで出かけるのを少々おっくうに感じており、天気を理由に外出を取りやめられたら、と密かに期待していました。しかし、逗子までの小旅行を中止する理由はなくなりました。私は家を出ると、地下鉄の駅に向かいました。通りは凍っていて歩きにくく、「道路がこんなでは向こうに着いても参拝なんて出来るのだろうか」と私は内心、心配でした。電車に乗ってからもしばらく不安に思っていましたが、電車が横浜を過ぎた頃から積雪はなくなり、私は初めて、東京の南西部では雪がほとんど降らなかったのだと気付きました。私は自分の無精さを恥じ、馬鹿な言い訳を考えていた自分が情けなくなりました。元旦を、神聖なお方や信者の皆さんと過ごせるなんて、本当に恵まれた機会なのに、一体、他にどこにいた方がいいと言うのでしょう。

　逗子の協会に着くと、玄関、ライブラリ、台所、階段と、誰かに会うたびに、新年の挨拶を日本語と英語で交わしました。正午少し前、二階の礼拝室で新年の礼拝が始まりました。初めにスワミ・メダサーナンダが短い挨拶をし、ヴェーダ讃歌と祈りを捧げました。そして、シュリ・ラーマクリシュナの福音、ホーリー・マザーの福音、ブッダの教え（原題『Lord Buddha's Message』）、聖書の四冊をそれぞれ日本と英語で朗読しました。

　続いて、スワミ・メダサーナンダが、シュリ・ラーマクリシュナの信者にとって元旦という日には特別な意味があることを話しました。なぜ元旦をスピリチュアル・カルパタル・デイ（Spiritual Kalpataru Day）と呼ぶのでしょうか。カルパタルとは願いを叶える木のことで、スワミはカルパタルと木こりの話をしてくれました。森で木を切っていた木こりが、ちょっと一休みをしようと、大きく枝を広げた木の根元に腰を下ろしました。その木はカルパタルの木で、木こりが、のどが渇いたと思えば、目の前にぱっと泉が現れ、お腹が空いたと思えば、足下に食べ物が現れました。やがて夕方になり、木こりが、虎が来たらどうしようと心配し始めた途端、虎が現れ木こりに襲いかかりました。「カルパタルの木は、心に浮かんだ願いは、良いものも悪いものもすべて叶えてしまうのです」とスワミは言いました。

　そしてスワミは、シュリ・ラーマクリシュナが晩年、コシポルの庭園に囲まれた家に移られた話をしました。師は喉頭ガンを患われており、静かで環境の良い

コシポルに移ることで、ガンの進行を遅らせることが出来るのでは、と周囲が考えていたのです。そのコシポルで、1886年1月1日の午後、新しい治療により体調が少し良くなった師は、散歩をしようと庭に出て来られました。その場に居合わせた三十人ほどの信者は、驚いて師の元に集まって来ました。師は信者を祝福しようと手を伸ばされました。『さあ、皆を祝福しよう。光あれ。』驚いたことに、師がこう言って一人一人に触れると、皆、言いようのない至福を体験しました。ある者は光を見、ある者は自分のイシュタを見、ある者は強烈な霊性の力を感じました。スワミは言いました。「1886年のこの日、シュリ・ラーマクリシュナはスピリチュアル・カルパタル、つまり霊的な願いを叶えるカルパタルになられたのです。信者の心の最も奥深くにある願いを叶えられたのです。」

　このことをテーマに皆で少しの間瞑想しました。そして、一階へ下りて昼食を取りました。大変楽しい昼食でした。昼食後、休憩を挟んで2時になると、暖かい格好をして防寒対策をしっかりと施し、全員で巡礼の旅に出ました。スワミを先頭に、まずはすぐ先にある、改築中のホーリー・マザーズ・ハウスを見に行きました。完成に向け、改築作業は最後の段階に入っていました。そして、そこから約40分歩いて鎌倉に到着しました。鎌倉には仏教や神道の長い歴史があります。一行は長谷寺に行きました。大仏に供物の果物を献上し、香を焚いて祈りを捧げました。また、皆で写真も撮りました。やがてお寺が閉まる時間となり、私たちはバスで鎌倉駅に行きました。

　駅に着くと、皆はスワミと一緒に鶴岡八幡宮に向かいましたが、私はここで皆と別れました。私は、今日という祝福と幸運に感謝し、今年は自分がスピリチュアル・カルパタルを体験出来たらいいなと思いました。

　（記者記す）

---

忘れられない物語

ニワトリになった鷲

　ある男が鷲の卵を見つけました。男は卵をニワトリの卵だと思い、裏の納屋にあるニワトリの巣に入れました。鷲の卵はニワトリの卵と共に孵（かえ）り、鷲のヒナはニワトリと一緒に育てられました。

　鷲のヒナは自分をニワトリだと思い、ニワトリのヒナと同じ行動を取りました。地面の虫をついばみ、ニワトリのようにコッコッと鳴きました。時々羽ばたいてみましたが、数十センチしか飛ぶことが出来ませんでした。

　年月が過ぎ、鷲は年を取りました。ある日、大空を悠々と飛ぶ鳥を見ました。金色の翼をさっと羽ばたかせ、強い向かい風をものともせず、青空に優雅に輪を描いていました。年老いた鷲は、畏怖の念に打たれ、呆然と空を見上げるばかりでした。「あれは一体誰なんだ。」

　隣のニワトリが答えました。「あれは鷲だよ。あれは空の生き物さ。地上にい

る俺たちニワトリとは違うんだ。」

　そして鷲はニワトリとして生き、ニワトリとして死にました。自分はニワトリだと思っていたからでした。

　（Soul Foodより）

==========

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001　神奈川県逗子市久木4-18-1
Tel: 046-873-0428
Fax：046-873-0592
Website: http://www.vedanta.jp
Email: info@vedanta.jp
[KENB018J]

==========